

オープンキャンパス Q&A

◎ 全 体

Q：入試に向けて勉強のしかたを教えてください

A：常日頃から規則正しい生活をし、継続的に進めていくのが学習の基本です。この基本は、受験だけでなく何事をなすにも不可欠で、この機会に身につけておけば将来にわたって役立つでしょう。

Q：就職先にはどのような企業があるのですか？

A：大学案内（P.88）、ホームページの[進路支援](#)を参照してください。

Q：どんな就職対策がありますか？

A：就職ガイダンスの開催や適職テスト等を実施し、就職・企業情報を随時提供しています。また授業としてキャリア教育を行うと共に、エントリーシートの記載指導や面接指導も行っています。

Q：資格取得について？

A：公務員受験対策講座、情報技術資格対策講座等の課外講座を開講し、学生の進路支援、就職活動に向けたサポートをしています。また各種の資格を取得した学生に対して、奨励金を給付しています。

Q：クラブ活動について

A：大学案内（P.82～83）、ホームページの学生生活クラブ・サークル活動（http://www.onomichi-u.ac.jp/campus_life/club.html）を参照してください。

Q：授業開始時間は何時からですか？ JR 尾道駅からのバス料金（定期券）はいくら位かかりますか？

A：9時からです。JR 尾道駅からは、大学行きの路線バスで約23分。
通学定期料金は、1か月9,720円、3か月27,700円、6か月52,490円です。
詳しくは、おのみちバス株式会社のホームページでご確認ください。

Q：下宿等について

A：本学が運営している学生寮はありません。大学の近隣や尾道駅からのバス路線沿いに民間経営の下宿・アパート・ワンルームマンションがあります。下宿等の資料は11月下旬から、本学玄関前に置いています。家賃は、部屋の形態や食事付かどうかの条件により様々です。

Q：奨学金制度について

A：日本学生支援機構の奨学金（無利子貸与・有利子貸与／月額3万円～12万円）は、高校の時に事前に予約できますが、大学入学後でも申込みができます。具体的には、4月初旬に説明会を開きますので、4月中に申し込んでください。

Q：過去問題の入手方法について

A：前年度の残部（解答なし）でよければ送付します。なお、送料は自己負担です。
封筒の表に「〇〇学科過去問請求」と朱書きし、返信用封筒を同封の上、尾道大学入学試験実施本部あてに請求して下さい。返信用封筒（角2型）には、送付先（郵便番号・住所・氏名）を明記し、200円分の切手を貼って下さい。

◎ 経済情報学科

Q：教員免許について？

A：高等学校教諭一種免許状(情報、商業)が取得可能です。ただし教職に関する科目を単位取得する必要があります。

Q：商業科出身で数学に不安があるが？

A：大丈夫です。本学部は、高校数学の復習をしっかりとってからより高いレベルの数学を学ぶようになっています。

Q：必修科目には何があるか？

A：経済学、経営学、情報、簿記とコンピュータ等に関する基礎的科目と演習、英語、スポーツ実習です。

Q：普通科出身だが会計・簿記は大丈夫か？

A：大丈夫です。基礎から確実に学べる教育システムになっています。

Q：経済情報学部と、経済学部や情報学部はどこが違うのか？

A：経済学部では、情報についてはコンピュータの基本アプリケーションの使い方程式しかやりませんが、本学経済情報学部ではプログラミングやデータベース、ネットワークなど情報通信、情報処理、情報システムについてかなり深く学べるようになっていきます。また、情報学部では情報通信、情報処理、情報システムについては本学経済情報学部よりさらに専門的に学べますが、経済や経営についての科目がほとんどなく、実際の経済や経営への応用については学べません。

Q：パソコンは買ったほうがいいですか？

A：入学時に学生全員にIDナンバーとパスワードが与えられ、授業では本学のコンピュータ設備を利用します。授業外の利用のためのコンピュータ室もありますので、必ずしも個人でパソコンを買う必要はありませんが、情報系の分野に進まれる方は購入しておいた方がよいと思います。

Q：推薦入試の小論文対策はどうすればいいのですか？

A：新聞の社説等を、一定の時間制限の下で熟読し、その要旨を例えば200字以内にまとめて書いたり、その内容に対する自分の意見を述べたりする筆記の練習を繰り返し行なうことが大切です。

Q：推薦入試の面接はどのように行われますか、また対策はどうすればいいのですか？

A：集団面接で行っています。自分の長所をアピールできるようにしておくことが大切です。更に、高校時代のことについて如何にプレゼンテーションを行なうかを考えておいたり、時事ニュースについての自分なりのコメントをまとめておくこと等も役に立つでしょう。

Q：推薦入試の[一般推薦]・[特別推薦]の倍率は？

A：2011年度推薦入試より推薦枠が変更し、初めての実施となりますので過去のデータがありません。

Q：授業のとり方は？

A：大学での授業科目選択については、専門基礎科目や語学等に幾つかの必修科目が課されていますが、基本的には本人の関心にあわせて自由に選択できます。

◎ 日本文学科

Q：日本文学科の授業にはどんなものがありますか？

A：本学日本文学科の特色は、日本文学、日本語学、中国文学といった伝統的な領域に加えて、欧米文学や文芸創作に関する授業が教養課程ではなく専門課程に設けられているところです。また、中古文学（1人）・中世文学（1人）、近世文学（1人）、近現代文学（3人）と、それぞれの時代の文学の専門家が、日本語学（古典語1人・現代語1人）、中国文学、欧米文学・比較文学、文芸創作の担当者とともに、学問・研究を手厚くサポートをする体制が整えられており、卒業研究の際に多様な選択肢が用意されていることも大きな特徴です。

Q：専門的な知識を身につけておくべきですか？

A：高校の授業で教わる内容をしっかり身につけてください。大学に入学したら、いろいろと体験して少しずつ学びたい事を絞ってゆけばよいです。

Q：選択科目はどのように選択したらよいのですか？

A：入学後に配付する「学生便覧」と「シラバス」、「時間割」をもととして、ある程度の枠の中、希望するものを選ぶことになります。履修相談にも応じていますので、心配することはありません。

Q：取得できる資格にはどのようなものがありますか？

A：高等学校教諭一種免許状(国語)、中学校教諭一種免許状(国語)と学芸員の資格が取得できます。

Q：文芸創作はどんなことをするのですか？

A：文芸創作とは、すでにあるものを分析・解釈するというのではなく、何もないところから何かを創り出す、主体的・発信的な教育・研究です。2年次に「文芸創作入門」として基礎的な指導を、3年次には文芸創作のゼミで実作指導を、また4年次も卒論ゼミに相当するゼミで卒業論文に相当する作品の制作指導をしていきます。その他にも、文学系の授業では作品を批判的・分析的に読む力を養い、日本語学系の授業では日本語の特徴や構造を知り、また日本語表現能力を養います。学生は、既存の文学観にとらわれることなく、純文学・エンターテインメント・児童文学等、さまざまなジャンルの文芸創作に取り組んでいます。

Q：最初から学系（日本文学、日本語学、中国欧米文学等）に分かれるのですか？

A：学系は学問の内容でして、コースなどに分かれることはありません。
興味に応じて、各学系から科目を選択します。

Q：推薦入試の小論文対策はどうすればいいのですか？

A：例年、課題文を使って設問しており、まず文章を正確に読み取る力が求められます。そして当然のことながら、論理的に深く思考する力、書くべきことを構想し、それをきちんと順序立てて表現する力を養っておく必要があります。日頃から、読む、考える、書くという経験を積んでおくといよいでしょう。

Q：推薦入試の面接はどのように行われますか？

A：集団面接で行っています。面接では、日本語・日本文学・中国欧米文学・創作を真摯に学び、研究することを志す意欲的な学生を求めて質問しています。

◎ 美術学科

Q：取得できる資格にはどのようなものがありますか？

A：高等学校教諭一種免許状(美術)、中学校教諭一種免許状(美術)と学芸員の資格が取得できます。

Q：教材費はいくらかかるのですか？

A：1年次で5万円くらいです。2年次以降はコースや個人の制作料によってことになります。

Q：1年次で3コースの課題をすべて取らなくてはならないのですか？

A：すべて取ることになります。未知の領域の技法を学ぶ体験も先々の制作に役に立ちます。

Q：油画コースの海外古美術研究の費用はいくらくらいかかりますか？

A：基本的に30万円を2年次より積み立てますが、それ以外に約10万円程度かかります。

Q：油画、日本画、デザインの中で、どのコースにするのか迷っているのですが？

A：1年次で描くコースの実習を実際に経験してみて、それから決めればよいです。

Q：卒業生はどのような企業に就職していますか？

A：デザインはデザイン関係、例えばパッケージデザインや映像関係、写真関係に就職する人が多いです。大学案内 (P.88)、ホームページの[進路支援](#)を参照してください。

Q：絵画系の人の就職はどのようになっていますか？

A：各自制作をしながら探していきます。大学院への進学も多く、中学高校の美術の講師・非常勤講師になる学生も増えてきました。美術館の学芸員、絵画の保存修復、印刷関係、漫画のアシスタントなど大学で学んだスキルを活かして働いている卒業生もいます。アルバイトしながら発表活動を継続している学生も増えてきました。

Q：デザインコースの視覚伝達領域・メディア伝達領域・造形伝達領域の違いは？

A：【視覚伝達領域】社会や個人に対してのコミュニケーションを、視覚的な表現から行うことを主題とした領域です（グラフィック・広告・パッケージ・エディトリアル・CI・BI・サイン計画・タイポグラフィ・マーク・ロゴ・イラストレーションなど）。

【メディア伝達領域】現代社会でのメディアの多様化に伴い、それらを利用して表現することを主題とした領域です（CG・実写やアニメーション映像・映画・ゲームなど）。

【造形伝達領域】主に立体・空間・造形を主題とした制作領域です（インテリア・プロダクト・空間造形計画等のデザインや、自己表現としての造形活動・工芸作品制作。）

Q：推薦入試の持ち込み作品5点のなかにファイルは含まれますか？

A：5点の中に含めないで結構です。

Q：尾道市と大学とのつながりはどのようになっているのでしょうか？

A：学内課題とは別に、尾道市からの依頼によるパッケージデザインやポスターデザインなどを制作する場合があります、実際に商品化されたり、印刷したものが街に貼り出されたりしています。

Q：学外活動の状況は？

A：学内課題とは別に、市内で活動している民間企業やNPOなどの活動への参加や、立案した企画の一般企業等への発表やそのプランの実行、他大学や他団体とのコラボレート（アートワークやデザインワーク）などを行っています。それ以外にも市内外の様々なスペースで発表活動を行っている学生も年々増加してきています。

◎ その他

その他の質問として、受験の対策、生活費、アルバイト、近隣の病院、通学方法、一人暮らしなど様々な質問が出ましたが、各ケースにより回答が異なります。詳しくは、尾道大学へお問い合わせください。
(入試に関しては、公表していない内容もありますので、ご了承ください。)